

委員提出意見

● 会長・副会長の選出について

承認 13 否認 0

● 意見交換（今後の取組について）及びその他意見

（沖村委員）

○令和3年度はコロナ感染拡大のため、ほとんど啓発活動が出来ませんでした。

○令和4年度は、盲ろう者の「コミュニケーションの学びの場」を札幌市の事業として開催していただきたい。

○盲ろう者のコミュニケーションは、視覚と聴覚の症状の進行により、変化していきます。音声や筆記でコミュニケーションをとっていた盲ろう者が、見え方や聞こえ方の症状が進行することで既存の方法では、会話・

情報入手が難しくなってきます。当事者から、新たなコミュニケーション習得の場の要望があり、少人数での手話・触手話・点字・指点字の講習会の必要性を痛感しているところです。

○令和2・3年度中止となった当事者主体の市民向け講座で盲ろう者のこと、盲ろう者のコミュニケーションを知

ってもら<sup>こうざ</sup>講座<sup>ぜ ひ</sup>を是非<sup>ひら</sup>、開かせていただきたい。

○啓<sup>けいはつ</sup>発<sup>さくせい</sup>まんが作成について

意思<sup>い し</sup>伝<sup>でん</sup>達<sup>たつ</sup>装<sup>そう</sup>置<sup>ち</sup>編<sup>へん</sup>、失<sup>しつ</sup>語<sup>ご</sup>症<sup>しょう</sup>編<sup>へん</sup>を<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>ませ<sup>よ</sup>て<sup>よ</sup>いた<sup>よ</sup>だ<sup>よ</sup>き<sup>よ</sup>ま<sup>よ</sup>し<sup>よ</sup>た<sup>よ</sup>。私<sup>わ</sup>は<sup>し</sup>盲<sup>もう</sup>ろ<sup>し</sup>う<sup>し</sup>者<sup>しゃ</sup>な<sup>し</sup>の<sup>し</sup>で<sup>し</sup>、通<sup>つう</sup>訳<sup>やく</sup>・介<sup>かい</sup>助<sup>じょ</sup>員<sup>いん</sup>に<sup>だい</sup>代<sup>だい</sup>読<sup>どく</sup>して<sup>いた</sup>だ<sup>き</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>し</sup>。聞<sup>き</sup>いて<sup>い</sup>て<sup>い</sup>、そ<sup>その</sup>の<sup>ない</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>す</sup>ご<sup>く</sup>感<sup>かん</sup>動<sup>どう</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>向<sup>む</sup>け<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ま<sup>す</sup>が<sup>が</sup>、大<sup>お</sup>と<sup>と</sup>な<sup>よ</sup>が<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>ん<sup>で</sup>も<sup>も</sup>、と<sup>と</sup>て<sup>も</sup>障<sup>しょう</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>特<sup>とく</sup>性<sup>せい</sup>や<sup>よ</sup>コ<sup>こ</sup>ミ<sup>み</sup>ュ<sup>ゆ</sup>ニ<sup>に</sup>ケ<sup>け</sup>ー<sup>し</sup>ョ<sup>う</sup>ン<sup>ん</sup>方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>・か<sup>か</sup>か<sup>か</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>い<sup>い</sup>内<sup>ない</sup>容<sup>よう</sup>で<sup>で</sup>し<sup>た</sup>。

是非<sup>ぜ ひ</sup>、「盲<sup>もう</sup>ろ<sup>ろ</sup>う<sup>う</sup>者<sup>しゃ</sup>編<sup>へん</sup>」の<sup>さく</sup>作<sup>せい</sup>成<sup>ねが</sup>を<sup>お</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>た<sup>い</sup>し<sup>ま</sup>す。

お<sup>お</sup>か<sup>か</sup>ざ<sup>ざ</sup>き<sup>き</sup>い<sup>い</sup>ん  
(岡<sup>お</sup>崎<sup>さ</sup>き<sup>き</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>)

○令<sup>れ</sup>和<sup>い</sup>4<sup>ねん</sup>年<sup>ど</sup>度<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>当<sup>とう</sup>協<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>で<sup>、</sup>タ<sup>た</sup>ブ<sup>ぶ</sup>レ<sup>れ</sup>ッ<sup>つ</sup>ト<sup>と</sup>を<sup>し</sup>ョ<sup>う</sup>使<sup>えん</sup>用<sup>かく</sup>した<sup>よ</sup>遠<sup>えん</sup>隔<sup>かく</sup>要<sup>よう</sup>約<sup>やく</sup>筆<sup>ひ</sup>記<sup>き</sup>サ<sup>さ</sup>ー<sup>さ</sup>ビ<sup>び</sup>ス<sup>す</sup>等<sup>とう</sup>を<sup>り</sup>ョ<sup>う</sup>利<sup>ち</sup>用<sup>やく</sup>した<sup>し</sup>聴<sup>ち</sup>覚<sup>かく</sup>障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しゃ</sup>の<sup>い</sup>し<sup>そ</sup>つ<sup>う</sup>思<sup>い</sup>思<sup>し</sup>疎<sup>そ</sup>通<sup>つう</sup>  
支<sup>し</sup>え<sup>えん</sup>き<sup>き</sup>ョ<sup>う</sup>か<sup>か</sup>じ<sup>ぎ</sup>ョ<sup>う</sup>を<sup>お</sup>こ<sup>こな</sup>な<sup>な</sup>に<sup>し</sup>ョ<sup>う</sup>行<sup>しん</sup>う<sup>じ</sup>と<sup>お</sup>な<sup>こな</sup>って<sup>い</sup>る<sup>が</sup>新<sup>しん</sup>事<sup>じ</sup>業<sup>ぎョウ</sup>を<sup>お</sup>こ<sup>こな</sup>な<sup>な</sup>に<sup>し</sup>ョ<sup>う</sup>行<sup>しん</sup>う<sup>じ</sup>に<sup>あ</sup>た<sup>た</sup>つ<sup>て</sup>は<sup>、</sup>札<sup>さ</sup>っ<sup>ぼ</sup>ろ<sup>ろ</sup>し<sup>し</sup>の<sup>たい</sup>せい<sup>せい</sup>を<sup>と</sup>との<sup>じ</sup>っ<sup>し</sup>し<sup>し</sup>の<sup>こと</sup>の<sup>ぞ</sup>体<sup>たい</sup>制<sup>せい</sup>を<sup>と</sup>との<sup>じ</sup>っ<sup>し</sup>し<sup>し</sup>の<sup>こと</sup>の<sup>ぞ</sup>整<sup>せい</sup>え<sup>て</sup>実<sup>じ</sup>施<sup>し</sup>す<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>の</sup>ぞ望<sup>ぞ</sup>み<sup>た</sup>い<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>ま</sup>す。

○要<sup>よう</sup>約<sup>やく</sup>筆<sup>ひ</sup>記<sup>き</sup>者<sup>しゃ</sup>が<sup>ひつ</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>と<sup>さ</sup>れ<sup>る</sup>派<sup>は</sup>遣<sup>けん</sup>事<sup>じ</sup>業<sup>ぎョウ</sup>が<sup>た</sup>し<sup>ゆ</sup>た<sup>た</sup>よ<sup>う</sup>多<sup>た</sup>種<sup>しゆ</sup>多<sup>た</sup>様<sup>た</sup>に<sup>な</sup>り<sup>、</sup>派<sup>は</sup>遣<sup>けん</sup>も<sup>ふ</sup>増<sup>ふ</sup>え<sup>つ</sup>つ<sup>あ</sup>る<sup>中</sup>で<sup>活</sup>動<sup>かつ</sup>資<sup>どう</sup>格<sup>しかく</sup>や<sup>ち</sup>地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>登<sup>とう</sup>録<sup>ろく</sup>の<sup>じョウ</sup>条<sup>じョう</sup>件<sup>けん</sup>に<sup>つ</sup>い<sup>て</sup>令<sup>れ</sup>和<sup>い</sup>4<sup>ねん</sup>年<sup>ど</sup>度<sup>と</sup>、札<sup>さ</sup>っ<sup>ぼ</sup>ろ<sup>ろ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>ちョウ</sup>調<sup>せ</sup>整<sup>せい</sup>し<sup>て</sup>い<sup>き</sup>た<sup>い</sup>と<sup>かん</sup>考<sup>かん</sup>え<sup>て</sup>い<sup>ま</sup>す

こんどういん  
(近藤委員)

いんしょくてん てんじか どうほうじん かいいん すべ ふたん こじんてき すす き こと ぎょうせい  
○飲食店メニューの点字化は、当法人の会員が全ての負担をしながら個人的に進めて来た事です。行政として  
たしょう いただ たいへん  
多少のバックアップをして頂ければ大変ありがたいです。

しょう たいけん こうざかいさい じょうきょう み ぜ ひひつよう おも どうほうじん  
○障がいについて体験していただく講座開催はコロナの状況をしながら是非必要と思われれます。当法人では  
ほこうくんれんたんどうしょくいん さつぼろしいたく どう かつどう なか こうし でむ こんご そうだん かんが  
歩行訓練担当職員（札幌市委託）等の活動の中で講師として出向いています。今後のご相談と考えます。

おおぬまいん  
(大沼委員)

かい しかくしょう しゃ ないた だんたい きょうりよく あ さんぼ ほじょ しかくしょう しゃ  
○むつの会では、視覚障がい者をサポートすべくセンター内他団体と協力し合って、散歩の補助、視覚障がい者  
フェア・ブラインドスポーツの補助などにボランティアとして参加してきた。しかし、緊急事態～まん防によっ  
ほうめん ぎょうじ すべ な しんたいてきせつしよく さ でき ほうほう くふう ひつよう いま  
てその方面での行事は総て無くなっている。身体的接触を避けて出来る方法の工夫などが必要だが、今のところ  
かいけつさく みいだ  
解決策は見出せていない。

しかくしょう しゃ ほん てんやく さつぼろしてんじとしょかん おさ さいだい しごと ちよつきん きん  
○視覚障がい者のために、本を点訳して札幌市点字図書館に納めることが最大の仕事となっている。直近の緊  
きゅうじたい えんぼうしたいおう かつどう ししょう ちよつきん  
急事態～まん延防止対応により、その活動にいくばくかの支障をきたしている。それをカバーすべく、直近では  
しょう たんい ないそうごこうせい おこな  
小グループ単位にグループ内相互校正を行っている。

やま だ い い ん  
(山田委員)

しょうちゅうがくせい む けいはつ しょう じっさい しょうちゅうがっこう ほうもん こうえんかい かいさい よ おも  
○ 小 中 学生向けの啓発まんがを使用し、実際に小 中 学校への訪問、講習会の開催があれば良いと思いました。

じっさい しょうちゅうがくせい も おや じゃくねんそう けいはつかつどう きょうみ  
実際に小 中 学生を持つ親として若年層への啓発活動へ興味があります。

こば や し い い ん  
(小林委員)

## 1 当事者主体の市民向け講座

かんせんたいさく ちゃくよう ばんしょう あ まえ いじょう ちょうかくしょう しゃ しゃかい  
感染対策のためのマスク着用・アクリル板使用などが当たり前になり、これまで以上に聴覚障がい者の社会

せいかつ ふべん ふつごう しょう かん しりょう さつぼろし こんご とりくみ どうじしやしゅたい し み ん む  
生活に不便や不都合が生じていると感じております。資料4 札幌市の今後の取組の「3. 当事者主体の市民向

こうぎ ひと いぜん さつぼろしちゅうとしつちょう なんちょうしゃきょうかい きかく じつし き こうしゅうかい  
け講座」の一つとして、以前、札幌市中途失聴・難聴者協会が企画・実施されていた「聞こえのサポート講習会」

は、この状況下でますます重要な取組となると考えます。

き き かた しょう とくせい りかい ひろ しみんだれ きがる はいりょ  
聞こえない、聞こえにくい方の障がい特性への理解を広げ、市民誰もが気軽に配慮できるコミュニケーション

しゅだん つた とりくみ れいわ ねんど かいさい ばあい どう きょうりょく かんが  
ン手段を伝える取組として、令和4年度にも開催がある場合は、当サークルも、ぜひ協力したいと考えてい

ます。

## 2 オンラインによる催しでの要約筆記利用に向けて

オンラインセミナーやオンライン会議等への遠隔からの要約筆記配信、およびオンラインで参加する聴覚

障がい者への要約筆記配信は技術的には可能になっています。一方でIT機器に不慣れな高齢の方をはじめ、

利用者自体の利用環境が必ずしも整っていない現状もあると感じております。

要約筆記を利用してオンラインでの催しに参加したいと希望される聴覚障がい者がいらした場合の環境

整備のための助成、機器の操作方法をお伝えする講習会等についてご検討いただきたいと思います。

## 3 札幌市主催の催し等の実施方法について

人と人とのコミュニケーションには音声のみでなく、表情や身振り、同じ空間を共にする人々のその場の

雰囲気なども重要な要素であり、特に聴覚障がい者にとっては、その要素が大きな割合を占めるのではない

かと思えます。昨今は感染防止対策の一つとして、オンラインでの催しが増えておりますが、人と人との関係性

やコミュニケーションという観点では、その限界も感じます。「今後の取組について」で申し上げた意見と矛盾

するようですが、札幌市で主催する行事や会議等については感染対策に配慮しつつ、集合開催の方法も常にご

検討いただきたいと思います。

はなだいいん  
(花田委員)

ちゅうとしつちょう なんちょうしゃたいしょうしゅわこうしゅうかい かいさいよてい にゅうもんへん ちゅうきゅうへん じゅこうしかく なんちょうしゃ かぞく かいご  
○中途失聴・難聴者対象手話講習会の開催予定(入門編・中級編)(受講資格に、難聴者の家族そして介護  
じゅうじ ふく  
に従事する方も含める)

しみんむ こうざ きかくこうぼがた き こうしゅうかい ようやくひつきつうやくしゃ きょうりょく  
○市民向け講座(企画公募型)の「聞こえのサポート講習会」を、要約筆記通訳者サークル『ふきのとう』協力  
かいさいよてい しみんひとり おお ほう ちゅうとしつちょう なんちょうしゃ しょう とくせい りかい ほうほう  
にて、開催予定(市民一人でも多くの方に、中途失聴・難聴者の障がい特性を理解してコミュニケーション方法  
きがる はいりょ とりくみ  
を気軽に配慮できる取組)

こうこうせいむ ちょうかくしょう とくせい りかい だまえ こうざかいさいよてい さくねん ぼうこうこう かいご こうぎ しょう  
○高校生向けの「聴覚障がいの特性の理解」の出前講座開催予定(昨年、某高校から介護コースの講義で障が  
いとくせい ほうほう こうざいらい あき ふゆ よてい ちゅうし  
いについての特性・コミュニケーション方法の講座依頼があり秋と冬に予定していたが、中止になりましたので  
ことし ぜ ひ じょうれいとう し きかい かいさい  
今年は是非コミュニケーション条例等を知ってもらう機会であり開催したい)

しんがた もよお ちゅうとしつちょう なんちょうしゃ がめんご  
○新型コロナによって、ほとんどがオンラインによる催しとなっており、中途失聴・難聴者にとって画面越し  
かいわとう ふべん かん どうきょうかい こうれい かた おお きき ふな りょうかんきょう かなら  
での会話等に不便さを感じます。また、当協会は高齢の方が多く機器には不慣れでそして利用環境が必ずしも  
ととの ぶぶん もんだい すこ ききそうさ りかいりょう こうしゅうかい じっし  
整っていない部分の問題もあります。このため、少しでも機器操作を理解利用できるように、講習会などの実施  
けいかく とりくみ ひつようせい かん  
する計画の取組の必要性を感じます。

もりいん  
(盛委員)

こんねんど えいきょう なんと ちゅうし つき いちどおこな せいしんりょうようこうざ とお いりょう  
○今年度はコロナの影響で何度か中止はありましたが、月に一度行っている「精神療養講座」を通して、医療  
ふくし かんけいきかん かた こうし まね どうじしゃ とくせい はいりよ かか かた しえんほうほう  
や福祉の関係機関の方を講師にお招きし、当事者のコミュニケーション特性にも配慮した関わり方や支援方法の  
けいはつ つと  
啓発に努めてまいりました。

どうだんたい せいしんしっかん も かた ごかぞく さんか かぞくかい れんごうかい どうじしゃ みじか  
○当団体は精神疾患をお持ちの方の御家族が参加されている家族会の連合会です。当事者にとって身近であるこ  
とお かぞく ぶんかか きかい おお かか かた なや おお かくかぞくかい ささ  
とが多い「家族」は、その分関わる機会が多く、関わり方について悩まれることが多いです。各家族会における支  
あ もちろん どうだんたい つき かい かぞくそうだんかい とお おな かぞく してん せんもんか  
え合いは勿論ですが、当団体でも、月に3～4回の「家族相談会」を通し、同じ家族としての視点、あるいは専門家  
してん しえんとう おこな  
の視点から支援等を行っています。

れいわ ねんど ようす み つうねん じょうき かつどう とも  
○令和4年度はコロナの様子を見ながらにはなりますが、通年で上記の活動をしっかりとやってゆくと共に、これ  
かつどう しゅうちかつどう ちから い かんが  
らの活動の周知活動に力を入れていきたいと考えております。

ながえいん  
(長江委員)

さっぽろして いくせいかい ちてきしょう はったつしょう ぎ じたいけん し かつどう へいせい ねん  
○札幌市手をつなぐ育成会では、知的障がい・発達障がいを疑似体験で知ってもらうための、活動を平成28年か  
み め わ ちてき はったつしょう ぎ じたいけん りかい  
らおこなっています。見た目では分かりづらい知的や発達障がいの疑似体験をしながら理解してもらいます。こ

これまで、小学校・区役所職員・町内会役員や看護学校の生徒さん・司法修習生など色々な方々の研修等で公演を行い、先日はリモート開催にも挑戦しました。もし、「知的障がい・発達障がい」の疑似体験でお役に立てることがありましたら、協力させていただきたいと思っております。

たかしまいん  
(高嶋委員)

大前提として、「誰もが住みやすい、人に優しいサッポロのまちづくり」の観点から、高齢者や外国籍の方、日本語が十分に使えない方々も視野に入れた次のような取組を札幌市としても進めてはどうでしょう。

1 手話普及は手話言語を使う市民への「合理的配慮」の一環として次のような取組を提案します。

① 社会の合理的配慮促進の意味から手話・コミュニケーション講座の開講を促し、講座開講の促進に向けて

予算の一部助成を行う取組。

(ア) 職場内に聴覚障害者が働いている場合(例：ろうあ者相談員)講師協力の促し。

(イ) 聴覚障害者が働く企業。

(ウ) 聴覚障害者が一人しかいない高齢者施設。

(エ) 手話通訳者同行で利用が多い病院。



(才) 聴覚障がい者が暮らす町内会

② 字幕表示、読みやすい、わかりやすい言葉への置き換え、手話案内の実施。

(ア) 市の観光、見学施設など。

(イ) チカホ、公共交通機関内。

(ウ) ホームページの専門用語の意味説明、難読漢字へのふりがな表示を進める。

③ 窓口業務に携わる市職員の手話による対応の促しや手話コミュニケーションの力を知る手話検定に挑戦する働きかけ。

④ 区役所住民課の窓口上部にある啓発用モニターの手話紹介場面を増やす。

⑤ 図書館に手話関連書籍やDVDなどを置いて理解と普及を図る。

2 手話通訳者派遣について

対面通訳が困難な場合（感染症、遠隔地、緊急時など）に医療機関が所持するネット環境と情報通信機器

を活用して、例えば、情報センターから遠隔手話通訳がおこなえるように医療機関側に必要性和理解を促して

ください。医療機関側も誤診防止や適切な医療提供のためにも必要だと思えます。

3 各区役所ろうあ者相談員席にタブレット端末を置いていますが、市民の所持する通信機器からアクセスできない仕組みになっているため「自宅からスマホなどで相談したくてもできなくて困っている」という声が寄せられています。

#### 4 その他

通信機器を活用した委員会開催も可能なら検討してはどうでしょう。

おおたいいん  
(太田委員)

1 毎年、札幌市主催の手話講習会、中級手話講習会、手話通訳者養成講座、また札幌協主催の手話普及事業に札幌通研として協力しているほか、札幌通研独自事業でも手話普及のための研修事業を開催していますが、ここ2年はコロナ禍で対面事業が減り、事業そのものを中止せざるを得ない状況が続いています。市民一丸となってコロナに立ち向かう必要がありますが、ろうあ者のコミュニケーションに必要な不可欠の手話通訳者がワクチンの優先接種がなかなか受けられずに困ってました。優先接種措置も、予約は自分ですというもので、一般接種とあまり変わらないものでした。今後、さらなる4回目接種等の必要性が出てきたときに、有効な優先接種を受けられるよう、お願いします。

2 ワクチン接種の予約の際、ろうあ者は電話が不可能なので、ファクスによる予約も可能にして欲しいと思いま  
す。特に高齢のろうあ者にはメール操作ができない方も多いので、市民向けの広報では必ずファクスによる  
予約も可能である旨を明示してくださるようお願いいたします。

### 3 今後の手話の理解・普及に向けたアイデアについて

① 街角の映像CM看板等で、手話による映像を常に流す。

② 中学・高校での部活に「手話部」を設定する。

③ ろうあ者の家庭生活で必ず接することになる医療機関や子どもの教育機関（学校等）の職員向けに特化  
した手話講座の開催。さらにこれを消防職員、警察官、聾学校の先生にまで拡げていく。

④ （社福）全国手話研修センターが実施している「全国手話検定試験」に札幌市職員が挑戦し、成績優秀者  
に対する優遇措置を検討する。

⑤ 各種観光施設における案内板を動画表示可能なデジタル看板にして、ボタンを押せば手話による案内説明が  
みられるようにする。

⑥ ろうあ者の住む町内会、あるいはろうあ者が勤務する企業での手話講座の開催。

#### 4 その他

ながび か しよめんかいさい え りかい こんご じょうけん かのう とう かいぎ  
長引くコロナ禍で書面開催もやむを得ないと理解していますが、今後、条件が可能なら zoom等による会議  
かいさい けんとう おも ばあい たいめん ふくごう かいさい かのう し  
開催も検討いただけたらと思います。場合によっては対面と zoom を複合したハイブリッド開催も可能かも知れ  
ませんので、検討をお願いします。

#### ●札幌市からの意見

れいわ ねんど しりょう こんご れいわ ねんどいこう とりくみ しめ ひ つづ  
○令和4年度につきましては、資料4「今後（令和4年度以降）の取組について」でお示ししたとおり、引き続き、  
かつよう しんがた かんせんしょうかくだいぼうし たいさく おこな ちやくじつ じぎょう じっし  
オンラインの活用など新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を行いながら着実に事業を実施していき  
ます。

きぞん とりくみ くわ しんがた かんせんしょう ちゆうし よ ぎ とうじしゃしゆたい しみん む  
○また、既存の取組に加え、新型コロナウイルス感染症により中止を余儀なくされていた、当事者主体の市民向  
こうざ あら さくせい けいはつ さくせいとう よてい いいん みなさま  
け講座や新たなテーマで作成する啓発まんがの作成等を予定しておりますので、委員の皆様におかれましては、  
ひ つづ きょうりょく ねが  
引き続きのご協力をお願いいたします。

た とりくみ たび いいん みなさま いただ さまさま いけん さんこう じぎょう かくじゅう  
○その他の取組につきましても、この度、委員の皆様から頂いた様々な意見を参考に事業の拡充をしていきたい

と考<sup>かんが</sup>えておりますので、こちらにつきましてもご協<sup>きょうりょく</sup>力<sup>ねが</sup>をお願いいたします。

○次<sup>じ</sup>回<sup>かい</sup>の促<sup>そくしん</sup>進<sup>いんかい</sup>委<sup>み</sup>員<sup>な</sup>会<sup>さま</sup>につい<sup>い</sup>ては、皆<sup>みな</sup>様<sup>さま</sup>から<sup>い</sup>の意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>にもあ<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>と<sup>お</sup>り、状<sup>じょう</sup>況<sup>きょう</sup>を見<sup>み</sup>なが<sup>ら</sup>、対<sup>たい</sup>面<sup>めん</sup>で<sup>の</sup>開<sup>かい</sup>催<sup>さい</sup>や zoom  
等<sup>とう</sup>のオ<sup>お</sup>ン<sup>ん</sup>ラ<sup>い</sup>ン<sup>ん</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>と併<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>せ<sup>た</sup>ハ<sup>あ</sup>イ<sup>あ</sup>ブ<sup>あ</sup>リ<sup>あ</sup>ツ<sup>あ</sup>ト<sup>あ</sup>形<sup>けい</sup>式<sup>しき</sup>で<sup>の</sup>開<sup>かい</sup>催<sup>さい</sup>を<sup>けん</sup>討<sup>とう</sup>し<sup>た</sup>い<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>ま</sup>す。具<sup>ぐ</sup>体<sup>たい</sup>的<sup>てき</sup>な日<sup>に</sup>程<sup>てい</sup>につ<sup>つ</sup>き<sup>ま</sup>し<sup>て</sup>  
は、近<sup>ちか</sup>く<sup>あ</sup>ら<sup>た</sup>な<sup>ら</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>ら、ま<sup>ま</sup>た改<sup>あらた</sup>め<sup>て</sup>相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>の<sup>う</sup>え<sup>え</sup>、決<sup>き</sup>め<sup>て</sup>い<sup>い</sup>き<sup>た</sup>い<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>ま</sup>す<sup>ので</sup>、ど<sup>ど</sup>う<sup>ぞ</sup>よ<sup>ろ</sup>し<sup>く</sup>お<sup>お</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>た<sup>し</sup>  
ま<sup>ま</sup>す。